

山崎貞著「新々英文解釈研究」(復刻版) 研究社 2008年12月25日刊を読む

新々英文解釈研究 (Aid To English Japanese Translation) とは

1. 英文を読む者——ことに受験者——のぜひ一通り心得ておらねばならぬと思われるような構文成句の一般を説きたいという考えで編まれたのが本書の前身「英文解釈研究」であった。
2. 同書は幸い学生諸君の求めるところに適したと見え、大正元年秋初版を出してから3年間に十数版を重ね、大正4年秋改訂増補の上書名に「新」の字を冠して発行してから数年間さらに数十版を重ね、なお需要増加の勢いであるという。
3. 今回再び全部にわたり改訂を施し、旧版例題中比較的実用に遠いものを省き、最新試験問題を加え、「新々英文解釈研究」と命名して発行することにした。例題の大部分は明治35年より大正12年に至る諸学校の入学試験問題から採り、その他は主として現行英語教科書に材を求めた。
4. 収録した構文成句の数は数百にのぼるけれど、比較研究に便にし、記憶を助けるため、形の似たもの、意味の似たものなどは一括して同所に集めて、百十余章に分ち、配列も文法的の順序によらず、やはり形や意味の類似をたどって脈絡を通ずるようにした。
5. 解説は紙面をおしまず、なるべく平易詳細に、かつ各章に簡単な類例数個ずつを加え理解を助けるようにしたから、これを誦読暗記すれば、ただに英文解釈のみならず、和文英訳にも資するところ少なくないと思ふ。
6. 近年発音のゆるがせにすべからざることが識者間に高調せられ、高等学校、商大等の入学試験には Accentuation の問題が加えられるようになった、これまことにしかるべき事であって、他の諸学校も漸次これにならうようになるだろうと思う。本書はこの趨勢(趨勢)にかんがみ、毎ページ重要な単語の発音と訳語とを脚註として付することにした。

大正14年1月

山崎貞

[コメント]

大学入試の勉強として何回読んだかわからない「山貞の新々英文解釈」。今、読み直してみると、ためになること、味わい深いことが山のように書いてあるのには驚くばかりだ。

- 2009年5月29日林明夫記 -